



JAAGAだより

日米エアフォース友好協会
Japan-America Air Force Goodwill Association

発行: 日米エアフォース友好協会
〒160-0002
東京都新宿区四谷坂町9番7号
ZEKS四谷坂町ビル3F
編集: JAAGA事務局
印刷: アロー印刷株式会社
ホームページ: <http://www.jaaga.jp>

空自 F-2 戦闘機と米空軍 B-1B・米海兵隊 F-35B の共同訓練 Joint Exercise of 4 F-2, JASDF and 2 B-1B, USAF & 4 F-35B, USMC on Sept. 17th



Photo by Public Affairs, ASO

航空自衛隊は、平成 29 年 9 月 17 日、築城基地第 8 航空団所属の F-2 戦闘機 4 機が、グアムのアンダーセン米空軍基地から飛来した第 37 遠征爆撃飛行隊所属の B-1B 戦略爆撃機 2 機及び米海兵隊岩国基地第 12 海兵航空群第 121 海兵戦闘攻撃飛行隊所属の F-35B 戦闘機 4 機と、九州周辺の空域において、日米共同対処能力及び部隊の戦術技量の向上を目的とした編隊航法の共同訓練を実施した。

日米韓三ヶ国の強固で緊密な連携の一環として、米空軍の B-1B×2 機及び米海兵隊の F-35B×4 機は、航空自衛隊との共同訓練に引き続き、韓国空軍との二国間共同訓練を実施した。

また、本訓練に先立ち 9 月 9 日には、東シナ海上空において那覇の第 9 航空団所属の F-15×2 機との共同訓練を行い、内 B-1B×1 機が訓練終了後三沢基地

に飛来し、翌 10 日に開催された航空祭において一般公開された。駐機した B-1B は、機体胴体下部の弾倉庫を開放し、来訪者に自由に見学させ、その戦略爆撃機としての威容を存分に示す展示であった。同航空祭には米海兵隊岩国基地所属の F-35B×2 機も展示された。これら一連の行動は、北朝鮮の度重なる核兵器開発や弾道ミサイル発射に対応した日米両国の強いメッセージである。
(早坂理事記)



B-1B & F-35B at Misawa AB on Sept. 9

～ JAAGA だより 53 号目次 ～

*F-2とB-1B & F-35Bとの共同訓練.....1	*スペシャル・オリンピックを支援.....16	*米空軍交換将校だより(通信電子部門).....30
*レッドフラッグアラスカ参加.....2	*SPORTEX17Aを開催.....19	*新入会員紹介・会員募集.....32
*北航空団副司令荒木 1 佐米空軍功労章受章.....4	*米軍人の「ねぶた 2017」参加支援.....21	*編集後記.....32
*嘉手納基地第 18 航空団司令官交代式.....5	*横田基地エアフォースボール 2017.....22	
*つばさ会/JAAGA 訪米団 AFA 総会参加報告.....6	*2017 横田基地日米友好祭が開催.....23	
*日米相互特技訓練の充実.....12	*JAAGA 会員の横田基地研修.....24	
*沖縄地区の日米下士官交流の進展.....15	*米空軍士官学校留学生へのホストファミリー支援.....26	

空自部隊が米空軍演習(レッド・フラッグ・アラスカ)に参加 " RED FLAG-ALASKA ", 300 JASDF members & 11 aircrafts participated



Warriors of JASDF and USAF, who participated in Red Flag-Alaska, Jun. 9th~24th, took photo in Eielson AFB, Alaska

航空自衛隊は、6月9日(金)～24日(土)の日程で、米国アラスカ州アイルソン空軍基地及びエレメンドルフ・リチャードソン統合基地並びに同周辺空域等において、米空軍の実施する演習(レッド・フラッグ・アラスカ)に参加し、日米共同訓練を実施することにより、部隊の戦術技量及び日米共同対処能力の向上を図った。

訓練参加部隊は、航空総隊から第2航空団(千歳)及び警戒航空隊(浜松)、航空支援集団から第1輸送航空隊

(小牧)である。隊員約300名、航空機F-15J/DJ×6機、E-767×1機、C-130H×2機及びKC-767×2機が参加し、防空戦闘訓練、空中給油訓練及び戦術空輸訓練を実施した。また、F-15が本邦-アラスカ間を渡洋する際には、米空軍空中給油機による空中給油も行われた。

今回、訓練実施部隊の指揮官として参加した第2航空団飛行群司令 増田信行 1等空佐から寄稿をいただいた。
(福永理事記)



Commander of the dispatched training unit, Air Support Command, JASDF made an courtesy call on Commander, 3rd Wing, 11AF, USAF at Joint Base Elmendorf - Richardson



寄稿

第2航空団飛行群司令 1等空佐 増田信行
RFA 17-2 参加所感

JAAGAの皆様、こんにちは。第2航空団飛行群司令の増田です。

航空自衛隊は、レッド・フラッグ・アラスカへ参加し、日米共同訓練を実施しました。私は、航空総隊の第2航空団及び警戒航空隊からF-15及びE-767をもって参加した訓練実施部隊の指揮官に任ぜられ、本訓練を指揮して参りました。JAAGAの皆様はその概要をご紹介します。

レッド・フラッグ・アラスカは、広大なアラスカの恵まれた訓練環境で、戦闘訓練計画の立案から発進及び帰投に至る一連の訓練を対抗戦方式によって演練するもので、参加者はその戦術技量を総合的に向上させることができます。私達はその中で防空戦闘訓練を行い、航空支援集団から参加したKC-767との空中給油訓練も行いました。



Commander of the dispatched training unit, Air Defense Command, JASDF exchanged gift each other with the Vice Base Commander of Eielson AFB

訓練は、前後のブリーフィングを含めると、連日早朝から深夜までに及ぶもので、各人の時間及び健康の管理には各級指揮官に苦勞してもらいました。E-767が展開したエレメンデルフ・リチャードソン統合基地はアンカレッジに近い

のですが、F-15が展開したアイルソン基地は、基地を出ると歩いて行ける所に人など住んでいませんから(ヘラジカはよく見ます。)、皆どっぷりと訓練に浸ったものと思います。

アラスカへ着いた当初は、水や食べ物が合わない者がいたり、また、この季節のアラスカは1日22時間太陽が出ていますから、時差ボケ解消を含め睡眠管理も大切で、これに苦勞している者がいたりしましたが、訓練開始時にはこれらも克服して臨むことが出来ました。

私達の目的は、部隊の戦術技量

及び日米対処能力の向上でしたが、参加隊員が各人の任務をよく自覚し、責任を遂行したことで、航空自衛隊は、本訓練における作戦機運用、整備品質の高さ、日常生活における礼節まで、高い評価と信頼を得ることができ、目的は十分に達成したものと思います。

訓練の合間には、現地部隊の指揮官等を表敬し、本訓練での協力及び支援等について感謝を伝えるとともに、色々と意見交換をしました。そうした中で、日本での勤務経験のある人は、皆日本を懐かしんでおり、数多い国外勤務の中でも日本が一番思い出深いと言ってくれた人もいました。

参加隊員達は、訓練の合間や休日などに米空軍人とバーベキューをしたり、フットサルをしたり、基地クラブに飲みに行ったりと、それぞれの交流を楽しんでいました。

本訓練の成功は、準備から携わった多くの部隊及び隊員の活動の賜物と感謝しています。また、誠に力強かった米軍からの航空自衛隊に対する理解と支援の陰には、JAAGAの皆様が航空自衛隊と米空軍の相互理解及び友好親善の増進のために行っている様々な活動と支えがあるものと認識しています。本紙面をお借りして御礼申し上げます。



Training scenes on Eielson AFB



米空軍功労賞を受章！ 北部航空警戒管制団副司令荒木 1 佐 Col. Araki, Vice Commander, NAC&W Wing, awarded Air Force Commendation Medal

7月27日(木)、北部航空警戒管制団副司令荒木俊一 1等空佐が、太平洋空軍司令官オショーンネシー大將(Gen. Terrence J. O’Shaughnessy)からの勲章(Air Force Commendation Medal 空軍功労章)を受章した。荒木 1 佐の前職(作戦システム運用隊副司令)時代、横田基地移転後間もない航空自衛隊と米軍との良好な関係構築への尽力と横田基地友好祭や日米共同訓練の成功などの顕著な功績が認められ、同勲章を授与された。

その表彰式は、非常にユニークに計画され、荒木 1 佐へのサプ

ライズの形で執り行われた。まず、第 35 戦闘航空団副司令トラビス・レックス大佐(Col. Travis Rex)が、離任挨拶のために北警団司令柿原国治将補の部屋を訪れ、勲章受賞を全く知らされていない荒木 1 佐はいつも通りに団司令に呼ばれて陪席していた。レックス大佐が、機を見て章状を読み上げ、荒木 1 佐が横田基地勤務時代に日米関係構築に尽力した功績やそれに対する勲章の授与



The awardee, Col. Araki

が発表されると荒木 1 佐の顔が緩み、左胸に勲章が下げられると満面の笑みに変わった。

荒木 1 佐は、「この勲章受賞はとても驚きました。自分だけではなく、つい最近まで共に頑張ってきた横田基地の日米の仲間達があつての成果であり、光栄に感じると共にやや恐縮しています。公私を問わず強い信頼の絆を結んでくれた前 374MSG 群司令マスカリー大佐(Col. Scott P. Maskery, Commander of MSG)とラム前次長(Mr. Stuart Lum, Deputy Director for Logistics, Installation and Mission Support)に感謝します」と喜びを述べた。
(池田理事記)



"(↑)【before surprising commendation】a friendly talk with Maj. Gen. Kakihara, Commander of Northern AC & W Wing and Col. Rex, Vice Commander, 35FW
(↓)【after】surprised – utter “Oh!” – delighted"



One shot as of assuming Vice Commander of Operation Support Wing at Yokota AB with his JASDF fellow, Col. Scott Maskery, 374 MSG and his fellow “the Team Masakari (= a battle-axe in Japanese)” on Mar. 15, 2016



嘉手納基地第18航空団司令官にカニンガム准将が着任 Brig. Gen. Case A. Cunningham assumes Command of 18th Wing, Kadena AB, July 19

7月10日(月)、米空軍及び海兵隊将兵並びに米国及び地元沖縄からの来賓を迎え、嘉手納基地において第18航空団司令官交代式が第5空軍司令官マルチネス中将(Lt.Gen. Jerry P. Martinez)の執行の下、厳粛に挙行された。JAAGAから渡邊副会長及び木村沖縄支部事務局長が参列した。マルチネス中将は、コーニッシュ准将(Brig.Gen. Barry R. Cornish)からカニンガム准将(Brig.Gen. Case A. Cunningham)への交代式において、コーニッシュ准将在任中の献身的、革新的かつ優れたリーダーシップを讃えるとともに、新たに着任したカニンガム准将への歓迎の意を述べた。

コーニッシュ准将の離任に際しては、航空幕僚長杉山良行空将(Gen. Yoshiyuki Sugiyama, Chief of Staff, Air Staff Office, JASDF)からの感謝状が伝達されるとともに、南西航空方面隊司令官武藤茂樹空将(Lt. Gen. Shigeki Muto, Commander, Southwestern Air Defense Force, JASDF)から防衛協力章が贈られた。その感謝状には「彼の多くの功績は、我が国に対する深い理解、誠意及び責任感が反

映されている。我々の彼に対する尊敬と信頼は日米両国の友情の礎として永く刻まれるだろう」と記されている。

コーニッシュ准将は、統合参謀本部作戦部(J-3)(部長は前第5空軍司令官のドーラン中将)国家統合作戦情報センター作戦第2課長(Deputy Director for Operations, Operations Team Two, National Joint Operations and Intelligence Center, J-3)へ転出した。カニンガム准将の前職は、米国ネバダ州の航空戦闘集団所属第432航空団兼第432遠征航空団司令官である。(早坂理事記)



Brig. Gen. Cunningham
the new 18th Wing Commander

映されている。我々の彼に対する尊敬と信頼は日米両国の友情の礎として永く刻まれるだろう」と記されている。



The 18th Wing Change of Command ceremony
presided by Lt. Gen. Martinez



Presentation of Defense Cooperation Reward Medal as
an appreciation for Brig. Gen. Cornish by Lt. Gen.
Muto, Commander of Southwestern Air Defense Force



A U.S. Air Force F-35A Lightning II from Hill Air Force Base,
Utah, taxis for take-off at Kadena Air Base, Japan, Nov. 7



Brig. Gen. Cunningham with Mr.
Watanabe, Vice President of JAAGA

「つばさ会／JAAGA 訪米団」AFA 総会参加等報告 TSUBASA-KAI and JAAGA members participated in AFA general meeting in U.S.

1 概要

平成 29 年度の「つばさ会／JAAGA 訪米団」は、岩崎 JAAGA 会長を団長とする 9 名で 9 月 10 日から 22 日までの間、訪米した。ワシントン D.C. においては永岩及び片岡 JAAGA 顧問の 2 名が本訪米団に合流した。

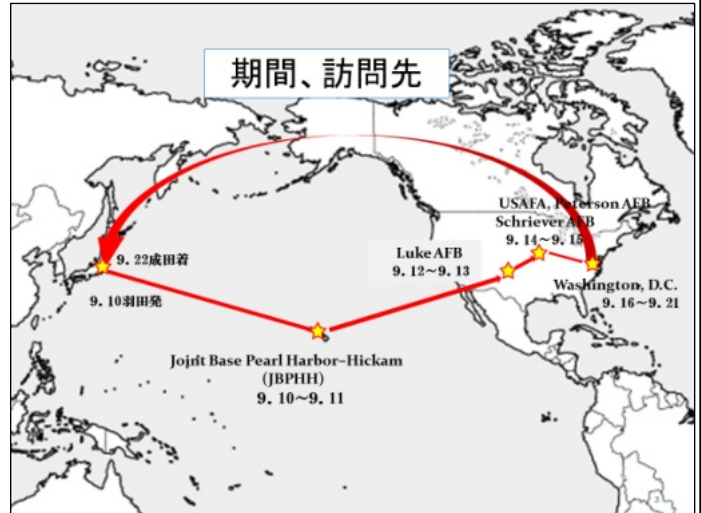
最初にハワイでは、太平洋軍司令部(PACOM)、太平洋空軍司令部(PACAF)、ホノルル総領事公邸を訪問した。次にアリゾナ州ルーク空軍基地(Luke AFB)では、第 944 戦闘航空団(944th Fighter Wing)の Academic Training Center を研修する他、航空自衛隊操縦者等との意見交換を行った。コロラド州ピーターソン空軍基地(Peterson AFB)では北方軍／北米航空宇宙防空司令部を、コロラド州シュリーバー空軍基地(Schriever AFB)においては第 50 宇宙航空団(50th Space Wing)と第 2 宇宙運用隊(2nd Space Operations Squadron)を研修した。

最後に、ワシントン D.C. では JAAGA 名誉会員等と交流し、また空軍協会(以下、AFA)カンファレンスに参加するとともに、同会場において空軍参謀本部の A-5/8 ハリス中将(Lt. Gen. Jerry D. Harris, Jr.)と意見交換を実施した。

2 ハワイ (Hawaii)

最初の訪問地ハワイでは、まず太平洋軍司令官ハリス提督(ADM. Harry B. Harris, Jr.)を表敬訪問・懇談の後、J-3(RADM. Patric A. Piercey)を訪問し意見交換を行った。ハリス司令官は懇談の中で「現在の日米関係は良好である。一方、ロシア、中国、ISIS(フィリピン・ミンダナオ島への拡散)及び北朝鮮等安全保障上の懸念がある」との認識を示すと共に、「地域の ISR に対して日本の P-1 や AEGIS の活動は貢献している。フィリピンに対しては UAV の海洋監視や、海兵隊がフィリピン陸軍を支援、豪州の EP-3 も協力し、お互いに航空機等を出し合って連携を強化することは良いこと」と述べた。

太平洋空軍司令部ではミッションブリーフィングを受けると共に、マック副司令官(Maj. Gen. Russell L. Mack)との意見交換を実施した。ブリーフィングにおいては、太平洋は急激に変化しているとして安全保障上のチャレンジとして、○北朝鮮のミサイル・核兵器の開発 ○東シナ海での問題 ○ロシアの太平洋に



おける活動 ○中国の南シナ海での飛行場等建設
○中国の南シナ海でのハイブリッド戦 (Now we have Little Red Boats) の 5 つを挙げた。次に、中国の A2/AD 拡大に触れ「今や米国が他国から邪魔されずに軍事力を世界的規模で投入できていた時代



JAAGA members make a courtesy visit to ADM. Harris, Commander of PACOM



Enjoying warmhearted dinner hosted by Gen. O' Shaughnessy, Commander of PACAF

は終わった。様々な工夫をして航空戦力の弾力性 (resiliency)を確保しなければならない。この中国の A2/AD 区域での戦いに敗れることは、この地域での軍事作戦というオプションを失うことになる。我々は、



President Iwasaki with Maj. Gen. Mack, Vice Commander, PACAF, on the occasion of receiving briefing

統合軍事作戦を実行可能性のあるオプションとして国家指導者に提示できるようにしておかなければならない」と説明があった。

太平洋空軍司令部訪問前夜にお

いては、オシヨネシー司令官 (Gen. Terrence J. O' Shaughnessy) 主催の夕食会に招かれた。オシヨネシー司令官からは「B-1BとF-15/F-2が尖閣を含む空域に展開し、Show of Forceとして極めて有効である。5世代機は広大なエリアにおけるマルチドメインのインフォメーションの活用が鍵、米空軍でも5世代機と4世代機の比率についてはバランスが重要だが未だ決まっていない」旨の発言があった。



Courtesy call on Consul General in Honolulu & visit at Makiki, the oldest Japanese naval base outside of Japan

また、研修団はハワイ総領事主催夕食会に招かれると共に、マキキ日本海軍基地及びえひめ丸慰霊碑を訪れ献花を行った。



In the Academic Training Center at Luke AFB

3 ルーク空軍基地 (Luke AFB)

ルーク空軍基地では、第944戦闘航空団でのブリーフィングを受け Academic Training Centerを



Receiving a mission briefing at 944th FW

研修すると共に、航空自衛隊操縦者等との意見交換を行った。

ブリーフィングにおいて、同航空団では2017年度の教育計画においてF-16:242名、F-35:58名、A-10:38名、F-15:196名の戦闘機操縦者を養成する旨の説明があった。空自操縦者等との意見交換では4名の操縦者の他、整備幹部1名が参加した。参加者からF-35について次のような意見があった。○F-35の運用に当たっては、空域の使い方が変わってくる。F-15やF-2とどのような共闘をするのかを検討する必要がある。○一定程度であればAWACSと同様の任務を果たすことも可能である。○PVI (Pilot Vehicle Interface) に対する配慮が極めて優れている。○今後、地上教育体制の充実が非常に重要である。○現状での課題は、システムが安定するまでに時間を要すること、各操縦者に合わせた個人装具の調達や個人装具に不具合が生じた際に代替が無いこと、及びディスプレイの解像度向上等である。

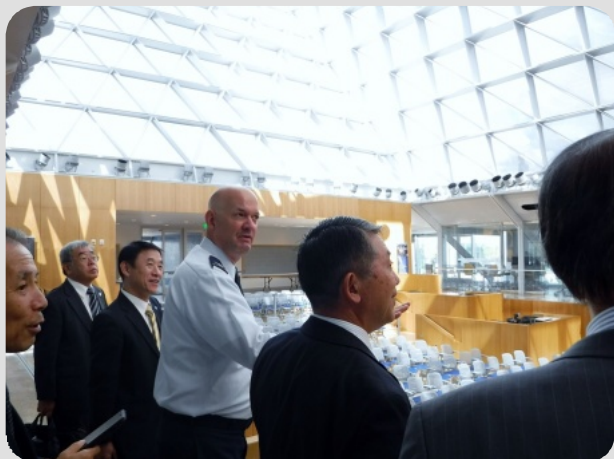
4 空軍士官学校 (United States Air Force Academy)

空軍士官学校においては、施設研修の他、シルベリア学校長(Lt. Gen. Jay B. Silveria)自らのミッションブリーフィングを受けた。その主な内容は次の通り。
 ○厳しい時代のリーダーとして、過酷な環境、状況の中で冷静に考えられる力を重視。そのため、批判的に考える力(How to think critically)を養うように努めている。
 ○空軍のカルチャーを教えるため、各学部には各職種いろいろなスペシャリティが居る。
 ○米空軍将校の約 75 %は ROTC で、約 25 %が本校出身者である。
 ○リーダーシップについては、あらゆる側面から教えるようにしている。
 ○昼食前の行進や、全学生一緒にの食事を通して躰教育の一環としている。
 ○アトリションレートは 17~20 %
 ○毎年、本校卒業生が約 900 名、その内パイロットは約 400 名。年間で合計約

1,200 名がパイロットになるが、その新人パイロット数より辞めるパイロットの数が多い。

5 ピーターソン空軍基地 (Peterson AFB)

ピーターソン空軍基地では、空軍宇宙軍(Air Force Space Command)と北方軍(U.S. Northern Command)及び北米航空宇宙防空司令部(North American Aerospace Defense Command)の研修を実施した。宇宙軍では、ミッションブリーフィングやレイモンド司令官(Gen. John W. Raymond)との意見交換の他、同司令官主催の夕食会にお招きいただき、またスキナー副司令官(Maj. Gen. Robert J. Skinner)を囲んでの JAAGA 主催夕食会などを行った。レイモンド司令官からは宇宙軍の研修全般にわたる絶大な支援を頂くと共に、長時間にわたって懇切丁寧な説明をしていただいた。



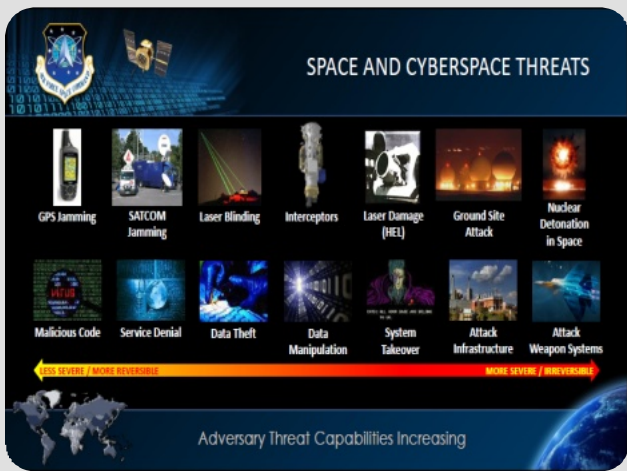
(↑) JAAGA members enjoy visiting facilities guided by Col. Mark Anarumo, Chief of Center for Character & Leadership Development of USAFA
 (↓) Inside of the Cadet Mess Hall, where some 4,000 cadets eat all together



Commemorative photo with Gen. Raymond, Commander of Air Force Space Command, at Peterson AFB

宇宙軍司令部でのミッションブリーフィングの概要は次のとおりである。

○宇宙軍の任務は、弾力性に満ちかつ利用しやすい宇宙・サイバー空間における各種能力を、統合軍や国民に提供すること。
 ○宇宙軍の人員は、約 36,000 名(現役兵 12,400、シビリアン 8,500、予備役等 6,200、請負業者 8,600)であり、空軍全体の約 4 %にあたるが、予算面では全体の約 10 %が割り当てられており、空軍が如何に宇宙を重視しているか明白である。
 ○宇宙・サイバー空間に対する脅威には、GPS Jamming、SATCOM Jamming 及び Laser Blinding 等から、よりシビアな Attack Infrastructure 及び Attack Weapon Systems など多種多様な脅威がある。



"An example of the mission briefing at Space Command regarding "Space and Cyberspace Threat"

6 シュリーバー空軍基地 (Schriever AFB)

第 50 宇宙航空団及び隷下部隊の GPS のコントロールを担当する第 2 宇宙運用隊の研修を行った。第 50 宇宙航空団ミッションブリーフィングは、次の通り。○本基地は、空軍で運用する早期警戒衛星を除くすべての衛星の管制を実施しており、米国で極めて重要な基地である。○50SW の主任務は、宇宙軍が運用する衛星の追跡と維持補修。○4 つの隊 (Squadron) からなり、毎日約 450 回、衛星とコンタクトして管制している。○GPS の管理も重要な任務である。○米空軍の枢要な宇宙・サイバーコミュニティであるのみならず、国防省全体の指揮統制機能をサポートしている。○近年においてはサイバースペースのオペレーションにも力を入れている。○現在、約 8,000 名が従事しており、40 %が空軍兵士、10 %がシビリアン、その他 50 %が請負業者である。



Commemorative photo with Col. Grant, Commander of 50th Space Wing, at Schriever AFB

次に、第 2 宇宙運用隊の研修では、実際に GPS 衛星のモニター、維持管理を行っているコントロールセンターを見学した。衛星が正しい信号を発信しているかの監視のみならず、それに対する妨害行為の有無にも目を光らせていた。常統的な監視には気力と体力が必要となるため、監視員には特に 20 代前半の若くて優秀な兵士を配置しており、彼らは非常に重要な役割を担っているという誇りを持っているように見受けられた。



"Vivid" breakfast with young, in their twenties, NCOs of 50 SW

7 ワシントン D.C. (Washington D. C.)

(1) JAAGA 名誉会員等との交流

今年も JAAGA 名誉会員の皆様には大変暖かく迎えて頂き、この JAAGA による日米間の交流に対する期待の高さを痛感した。

ワシントンに移動した翌日、9 月 17 日 (日) にエバハート元大将邸でのカクテルパーティー、そしてその後、場所を変えて JAAGA 主催の夕食会を実施した。毎年恒例となっているエバハート邸でのカクテルパーティーは、一年ぶりの再会に話が大きい弾んだ。この交流は今年で 19 回目となり、多くの方々の努力によって維持されてきているが、中でも長年にわたり積極的に中心的役割を果たしていただいているエバハート元大将には、心から御礼を申し上げる次第である。



"Regular" Cocktail Party at the residence of Gen. (Ret.) Eberhart

夕食会に際して、冒頭エバハート元大将から「1997年に鈴木元空幕長を団長とするJAAGA訪米団の米国訪問が始まって、今回が19回目である。訪米団は、日本に縁のある米軍将官が勤務する基地等を訪れるとともに、ワシントンDCにおいてこのように交流を深める場が定着するに至っている。このような機会が日米空軍の交流にどれだけ貢献しているか計り知れないと思っている。来年は、記念すべき20回目となる。日米の空軍間の関係の更なる深化を願っている」というご挨拶を頂いた。一方、岩崎団長からは、「昨年につき、JAAGA訪米団の団長として、名誉会員の皆様とお会いできて幸せである。今年、ハワイでは、オシヨネシーPACAF司令官に加えハリスPACOM司令官にもお会いし、親しく意見交換をすることができた。デンバーではレイモンド大将が大変親切に訪問団を接遇していただいて、充実した訪問となった。アジア太平洋地域は北朝鮮のミサイル発射や核実験、中国とロシアの軍事活動の活発化など、不安定さを増しているが、このような時にこそ、航空自衛隊と米空軍の緊密な関係が大切になってきている。今後も名誉会員の皆様にはJAAGAの活動への一層のご理解とご協力をお願いしたい」と挨拶をした。夕食会は、和気あいあいとした雰囲気の中で交流を深め、昔話にも華が咲き、あつという間の楽しいひと時だった。



President Iwasaki makes an opening speech at the JAAGA hosting dinner with Honorary Members and their wives

JAAGAは昨年、創立20周年を迎えたが、安全保障にかかわる日米の信頼関係を維持、強化していく上で、こうした元制服組の交流が大きな役割を果たしていくであろうことは間違いないということを改めて強く感じた。

(2) 米空軍協会(AFA)コンファレンス

ア 空軍参謀本部のA-5/8、ハリス中将(LTG. Jerry D. Harris, Jr.)との意見交換

今年は先方のスケジュールの関係上ペンタゴンへの

訪問はできなかったが、空軍参謀本部のA5/8、ハリス中将とは空軍協会のコンファレンス会場にて意見交換を行うことができた。ハリス中将からは「北朝鮮情勢は重大な脅威、日本のBMD体制整備に関心をもって見ている。F-15とF-16は当面近代化しながら維持していきたい。F-22の今後の増産は考えていない。値段が高すぎる。同じ値段でF-35が3機買えるので、同じ額の

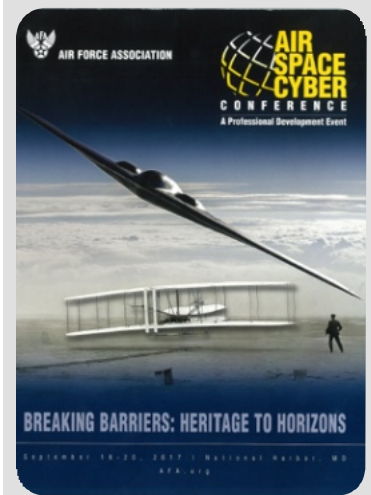


Exchanging views with A-5/8 at AFA conference hall

予算を割くならその方が良い。F-35は批判もあるが良い戦闘機だと思っている。単発エンジンを懸念する者もいるが、その一つのエンジンは非常に良いものだ。空自の1,000回を超えるスクランブルというのは驚きの数字だ。部隊の負担は大きいだろうと推察する」などの発言があった。

イ 米空軍協会主催の“2017 Air, Space & Cyber”カンファレンスへの参加

今年は米空軍創設70周年ということで、「Breaking Barriers: Heritage to Horizons」をテーマとして設定し、壁を突き破ってその先に進んでゆこうということで、その趣旨に沿って様々な分野のパネルディスカッションが開催され、沢山の現役軍人も参加していた。



国旗入場、国歌斉唱、チェアマンの挨拶、優秀軍人の表彰等のオープニングセレモニーに引き続き空軍長官による基調講演から始まり、3日間にわたって30を超えるパネルディスカッションや講演が行われ、内容の濃いカンファレンスだった。初日にはウィルソン空軍長官(Secretary of the AF, Heather A. Wilson)、二日目にはゴールドフィン空軍参謀総長(Gen. David L. Goldfein, Chief of Staff of the AF)、そして最終

日にはマチス国防長官(Secretary of Defense, James N. Mattis)がそれぞれ講演を行い力強いメッセージを伝えていた。また、同時に開催された技術展示には、この企画に協賛金を出している多くの企業がブースを構えて各社の技術の紹介をしていた。日本からは川崎重工業がブースを構えていた。



(↖)Mr. Mattis, Secretary of Defense,(↑) Ms. Wilson, Secretary of the AF and (←) Gen. Goldfein, Chief of Staff of the AF, are making speeches at AFA conference

(ア) ウィルソン空軍長官の基調講演の概要

空軍長官は、「State of the Force」という演題で、いずれも米国国家としての必要性に基づくものであるとして、5つの優先して実施すべき重要事項、即ち○レディネスの回復○費用対効果のあるやり方での近代化○イノベーションの推進○優れたリーダーの育成○同盟の強化について述べた。

(イ) ゴールドフィン参謀総長のスピーチ概要

ゴールドフィン参謀総長は、「Air Force Update」と題するスピーチで、3つの事項、即ち、○隊の再活性化○統合軍のリーダー及びチームの強化○マルチドメインのコマンド・コントロールの強化、に焦点を当てて話をした。

(ウ) マチス国防長官のスピーチ概要

コンファレンス最終日に行われた国防長官のスピーチは、「空軍は創設 70 周年を迎えたが、この間空軍が成し遂げてきたこと、そして今の空軍に対して諸君は誇りを持たなければならない。今日は、空軍に敬意を表するとともに、現在 DOD そして空軍において起きていることについて私の考えるところを話したい」という言葉から始まった。続いてスピーチでは、統合及び協同の重要性、そしてその中の空軍の役割の重要性等について自らの経験を踏まえながら語り、「空軍に期待することは戦いに勝つこと」と明確なメッセージを送った。また、会場には多くの防衛産業の幹部等が参加していることも考慮してのことと思われるが、「アメリカの優位性を維持するためには、国防予算の先行きが見通せるようにして、企業がどの方向に貴重な資源を投資すべきかを明らかにすることが大切だ」と述べ、企業参加者から拍手が起きるといった場面もあった。国防長官は、主として、ここに示した DOD レベルで努力を傾注していること

として、○より破壊的、致命的な統合軍の創設○同盟国や国際的なパートナーとの関係を強化○国防省内の仕事のやり方を改善・改革、以上の 3 点について話をした。

最後に、人材、人の話に触れておきたいとして「的確なリーダーシップ、それは基本的に人間の問題であり、全ての指揮系統において調和を作り出せる人物、真実を述べる人が必要とされる」等々の話をした。約 50 分程度の短い時間のスピーチと質疑応答だったが、マチス長官が「戦う修道士」といわれるのが話の中で引用する言葉の端々から何となく頷けるような、含蓄のあるスピーチであった。

(エ) コンファレンス会場で同時に開催された技術展示

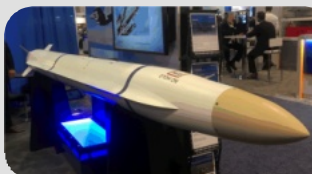
固定翼機の分野では、企業選定が目前に迫った T-X と JSTARS がメインで、残りは各社が開発した機体などを少しずつ紹介している程度であった。通信電子に関しては宇宙監視に関する展示や EW を強調した展示も見られた。また UAV の展示も複数見られ、搭載機器についても搭載性を意識した小型化・省人化への対応を目指している印象を受けた。誘導兵器に関しては、搭乗員(味方側)の Survivability を重視した長射程、UAV 搭載型、また、爆発影響を限定した特殊攻撃用(Pin Point)用の武器が目立った。また、各国で導入が進む F-35 への搭載を意識したものの、データリンク前提となった現状においてデータリンクが妨害・途絶した場合でも自律飛行し目標を破壊できるミサイルなどの展示もあった。

この技術展示に関しては、日本防衛装備工業会(JADI)が調査団を派遣して調査を実施している。

8 最後

以上のように、本訪米ツアーは大きな成果を収めて無事に終了できた。これもひとえに航空幕僚監部関係各課を始め、米国防衛駐在官、ハワイ連絡官、空軍士官学校交換幹部、ルーク・機体管理要員及び訪米団所属企業等の多くの方々のご支援の賜物であり、訪米団メンバー一同、心から御礼を申し上げる。(訪米団資料から 早坂理事記)

Technology exhibition is opened during AFA conference period



日米相互特技訓練の充実 Enrichment of Bilateral Exchange Program between JASDF and USAF in Japan

日米相互特技訓練は、平成7年度から日米相互の理解及び友好を深めるとともに英語能力向上の動機づけを目的として、「日米相互部隊研修」の名称で在日米空軍と航空自衛隊との間で約300名以上の研修を実施してきた。そして平成26年度より現在の「日米相互特技訓練」と名称が変更され、日米双方の特技能力向上による共同対処能力の基盤強化及び現場レベルでの相互理解を更に深めるよう工夫されてきた。

今年度は、多様な特技、環境による訓練及び下士官の資質向上が重視され、空自からの参加者は運用、整備特技に限らず幅広く募られ、また、受け入れ部隊として第1航空団、第2補給処及び飛行開発実験団等が計画されることになった。そして訓練内容には日米下士官のリーダーシップに関する討論が盛り込まれ日米下士

官の相互理解を深めるとともに、下士官の役割についての再認識が図られているとのことであった。また、F-35戦闘機の運用を見据えて業務処理要領の理解及び整備業務に必要な英語能力向上の動機づけに役立っているとのことである。

本記事執筆中の今も、11月20日(月)～30日(木)の日程で幹部2名、空曹13名の計15名が参加し米空軍嘉手納基地において日米相互特技訓練に励んでいる他、今年度の残りの計画は、4四予定の浜松基地受け入れ、1月下旬計画の米空軍三沢基地差出となり、築城基地の受け入れについては次年度で検討されるとのことである。

日米相互特技訓練の所期の目的が達成され、実務レベルの交流へJAAGAの実施する支援が実を結んでいくことを祈念する。
(福永理事記)

岐阜基地 (Gifu AB)

空自基地受け入れによる日米相互特技訓練は、10月に予定していた築城基地での訓練は諸般の事情から時期と場所が再検討されることになったが、岐阜基地における訓練は計画どおり米空軍嘉手納基地から10名の下士官を受け入れて実施された。訓練に参加した第2補給処兼ねて岐阜基地准曹士先任の杉本明伸准空尉から寄稿いただいたので、以下に紹介します。

(福永理事記)

寄稿

第2補給処兼岐阜基地准曹士先任
准空尉 杉本 明伸

9月24日(日)～10月4日(水)の間、岐阜基地(司令平元和哉空将補)において日米相互特技訓練(在日米空軍第18航空団(嘉手納))の短期受け入れを実施した。

岐阜基地においては、例年実施していることもあり、受入れ要員の英語能力が試される絶好の機会でもあった。受入れにあたっては、第2補給処企画課訓練班が中心となり、各所在部隊との綿密な調整により、整齐と訓練内容を実施することができた。

初日は、日米相互の概要説明に始まり、記念写真撮影終了後、基地クラブにおいてアイスブレイカーを実施し、緊張した雰囲気を解き放つことができた。

土日の休養日については、基地体育館において、体育訓練(卓球・バスケットボール・バレーボール)を実施後、地元の犬山城周辺の史跡巡りを楽しみ、夜は市内の伊木山にあるバーベキュー場にて渴いた喉をビールで潤した。

日米相互特技訓練スケジュール

空自受入基地 (trainig base)	期間 (period)	参加人員 (participants)	空自差出基地 (training base)	期間 (period)	参加人員 (participants)
築城基地 (Tsuiki AB)	TBD (2018)	9 (USAF)	横田基地 (Yokota AB)	2017. May 31 ～ Jun. 9	14 (JASDF)
岐阜基地 (Gifu AB)	2017. Sep. 29 ～ Oct. 4	9 (USAF)	三沢基地 (Misawa AB)	2017. Sep. 6 ～ Sep. 14	7 (JASDF)
浜松基地 (Hamamatsu AB)	2018. Feb. 6 ～ Feb. 12	10 (USAF)	嘉手納基地 (Kadena AB)	2017. Nov. 20 ～ Nov. 30	15 (JASDF)
—	—	—	三沢基地 (Misawa AB)	2018. Jan. 24 ～ Feb. 2	7 (JASDF)



at Gifu AB

週明け月曜日は、飛行開発実験団、岐阜管制隊、第4高射群、2補保管部、2補整備部での研修を行い、午後からは基地広報館の見学も実施した。

火曜日については、特技毎の訓練であった。特に、施設特技員については2補施設課消防班において、実際に消防

車に乗り込んで消火訓練をするなど、充実した訓練内容であった。なお、早めに特技訓練を終了した隊員については、剣道 7 段の隊員 (2 補保管部准曹士先任) による剣道教室も開催し、良い汗を流していた。午後からは飛行開発実験団飛行実験群飛行隊の支援により、C-1 による体験搭乗も実施した。C-1 の飛行中、搭乗した日米双方の隊員たちは、自衛隊パイロットの高度な操縦技量に大きな歓声を上げるほど驚嘆をしていた。夜はフェアウェルパーティーとして、市内カラオケ店において夕食を兼ねて歌とダンスで最後の夜を満喫した。この訓練を通じて、日米の相互理解の重要性を認識

するとともに、英語能力の重要性を再認識できた。受入れ要員の英語対応も日を追うごとに円滑になり、その変化ははっきりと感じる事ができた。自信なさそうだった表情が、片言でも話せるようになり信頼関係が生まれ、自然と笑顔になることを感じた。短い期間ではあったが、訓練を通じて互いに自国を守る気持ちに違いはないことを実感した。

最後に、岐阜基地の隊員から、「今度は我々が嘉手納に研修に行きたい」との声が上がり、米空軍の随行者から「是非来て下さい」との回答を得て訓練を終えることができた。



Several scenes of training, etc. at Gifu AB



千歳基地 (Chitose AB)

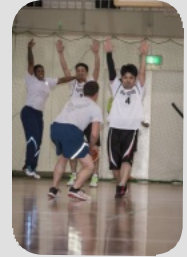
4 月 11 日 (月) ~ 20 日 (水) の日程で千歳基地 (第 2 航空団) において、米軍三沢第 35 戦闘航空団から 10 名の下士官が参加し、相互特技訓練が行われた。本訓練は、3 月に平成 28 年度計画分として予定されていた

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

ものである。日米双方の隊員が各特技ごとの実務訓練及び体育訓練を行った。米空軍と航空自衛隊の任務及び整備作業等に関する討論 (ミーティング) も実施され、活発な意見交換が実施されたとのことである。

(福永理事記)

U.S. & Japanese Airmen enhance bilateral partnership and make friends each other at Chitose AB



Photos by Misawa AB HP

米軍基地における日米相互特技訓練

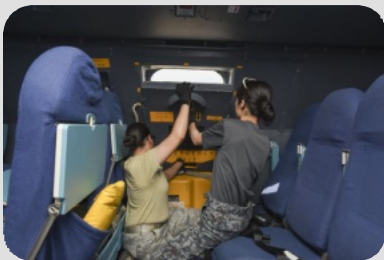
米空軍横田基地 (Yokota AB, USAF)

5月31日(水)～6月9日(金)の日程で米空軍横田基地(第374空輸航空団)において、第6航空団の航空機整備幹部(3等空尉)を長として、航空機整備、車両整備、土木建築、設備機械、補給、通信、飛行管理、空中輸送及び気象観測という多彩

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※
な特技の13名の空曹が、入間、小松、春日、松島、新潟、芦屋、浜松、府中、横田及び高蔵寺の各部隊から参加した。

訓練は、導入教育及びアイスブレイカーと呼ばれる懇親会の後に、各特技毎の実務訓練及び体育訓練(筋力トレーニング及びソフトボール)が実施され、所期の目的が達成されたとのことである。

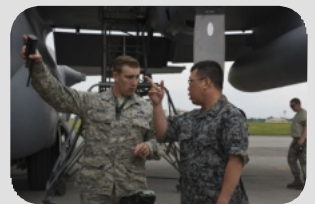
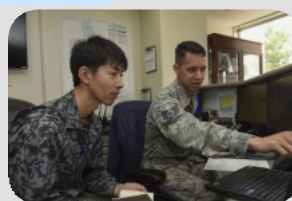
(福永理事記)



Several scenes of training at Yokota AB



Photos by Yokota AB HP



沖縄地区の日米下士官交流の進展(地域貢献活動を通じて)

Progress of Japan-U.S. NCO Exchange Program in Okinawa (Through regional contribution activities)

航空自衛隊在沖縄基地等の准曹会は、那覇基地第9航空団と米空軍第18航空団の「日米下士官交流」の他にも在沖縄米軍と在沖縄陸海空自等との共同で活発にボランティア活動を行っている。ここで紹介する活動は航空自衛隊と米空軍との下士官交流にも寄与し得るものであることから、JAAGAとして積極的に応援する意義があるとの考えから掲載するものである。以下は那覇基地新聞「おきなわ」(7月28日号)及び准曹会機関紙からの抜粋である。

(早坂理事記)

那覇基地は陸海空の部隊が所在する基地であるので、曹友会(陸上自衛隊)及び上曹会(海上自衛隊)と連携した活動を数多く行っている。また、近くに米軍基地も多数あるので、課業時間外の日米共同作戦も多数行っている。摩文仁の丘で行った清掃活動を紹介する。

この清掃活動は、昭和48年に曹友会が行った清掃活動を起源としており、合同での実施は平成10年から継続

している。今年も慰霊の日(沖縄県は6月23日を慰霊の日として、県内の各種機関の休日)前の土曜日にあたる6月17日に計画したが、あいにくの雷雨と強風により残念ながら延期した。しかし翌日には天候が奇跡的に回復し、陸海空隊員と家族、在沖米軍、防衛協会からOBに至るまで合わせて約千名に集まって頂き摩文仁清掃作戦はスタートした。

曹友会は海空が避ける坂道を今年も担当し、われらが那覇基地准曹会は最も多い人員を集めて上曹会と共同で、丘の上の各都道府県の慰霊碑が並ぶ広いエリアを担当し、幹部会とOB会及び在沖縄米軍は戦没者の名前が刻まれた平和の礎を担当し、それぞれが多大な成果を上げることができた。今後も准曹会は地域への貢献及び後輩育成のために汗をかいていきたいと思うのでご支援ご協力をお願いします。

(准曹会那覇支部会長 空曹長 松原 洋 記)



Volunteer activities to clean up Mabuni Hills



スペシャル・オリンピックを支援 JAAGA supports Special Olympics in Yokota, Misawa and Kadena AB

米軍三沢基地(Misawa AB, USAF)

第31回三沢基地スペシャル・オリンピックが10月14日(土)に、青森・岩手から招待されたアスリート、三沢基地所在の空軍、海軍、空自、市民のボランティア及び特別ゲストとして世界陸上メダリスト(50Km競歩、航空自衛官)が参加して賑やかに行われた。当日は天候にも恵まれ、聖火点灯、日米国歌斉唱、米軍基地司令のジョーブ大佐(Col. R. Scott Jobe, Commander of Misawa AB)の開会宣言で競技を開始し、参加者一同競技を楽しんだ。JAAGAからは、丸山支部長及び山本事務局長が参加し、基地司令にJAAGAからの寄付を手交した。基地司令からはJAAGAの活動に感謝の言葉がありました。

(丸山三沢支部長記)

三沢基地2・3曹会は10月14日に米軍主催のスペ

シャル・オリンピックに参加しました。

今回、私たちは射的のブースを設置し、アスリート達と触れ合いました。的に当たった時のアスリート達の嬉しそうな顔が大変印象に残っています。

当日はスペシャルゲストとして世界陸上50km競歩の銅メダリスト谷井孝行選手も参加し、会場は大いに盛り上がりました。三沢基地太鼓部の方々も参加してくださり、すばらしい演奏を披露してくださいました。

このボランティアを通じ、アスリートや沢山の方々との交流を深めることができ、とても充実した一日とすることができました。次回は皆さんも参加してみたいはいかがでしょうか。

最後に、今回協力して頂いた皆さんに感謝するとともに、今後も私たち三沢基地2・3曹会の活動にご支援とご協力をお願いいたします。

(三沢基地2・3曹会副会長 2等空曹 澤田和希 記)



Mr. Maruyama, Head of JAAGA Misawa branch, hands small donation to Col. Jobe



Col. Jobe hands out medals during the 31st Annual Special Olympics at Misawa Air Base



米軍横田基地 (Yokota AB, USAF)

2017年度の関東スペシャル・オリンピックスが6月17日(土)、真夏を思い起こすほどの強い日差しが降り注ぐ青空の下、横田基地のボンク・フィールドで開催された。今年は基地周辺市町村の8施設約130名の選手が招待され熱戦が繰り広げられた。JAAGAからは山崎副理事長と阪東、石野及び藤田各渉外担当理事が出席した。

開会式は日米国旗を先頭に選手たちが胸を張って入場行進、スタンドを埋め尽くした陸海空自衛隊のボランティアが割れんばかりの拍手で選手を迎えた。日米両国の国歌斉唱、聖火入場に続き、第374空輸航空団司令官モス大佐 (Col. Moss, Commander of Yokota AB) が「この大会は米軍及び自衛隊のボランティアの協力で成り立っている」と挨拶、日米両国の強い絆を感じる大会となった。

今年も航空自衛隊連合准曹会が窓口となり、ボランティア支援を始めてから最大規模となる約700名の陸海空自衛隊の隊員とその家族が参加した。本ボランティアは准曹士隊員主体の支援ではあるが、各部隊の幹部自衛官からの要望を受け若手幹部も参加し、隊員と一緒に汗を流していた。会場裏手のフードコートでは、ランチの準備をする日米隊員の笑顔が印象的だった。

競技開始後、山崎副理事長と各渉外担当理事は、各フィールドに出向き選手やボランティアを激励して回った。山崎副理事長は、「自衛隊ボランティアの活動は承知していたが、これほどまでの支援の規模と隊員たちの情熱を目のあたりにして感動した。JAAGAとしても更に支援の枠を広げられないか考えたい」と熱く語り、日差し以上の熱い思いを胸に横田基地を後にした。

(藤田理事記)



Photos by Yokota AB HP

Entrance procession and activities of volunteer personnel from Ground, Maritime and Air Self-Defense Forces



Col. Moss and participating JAAGA directors



Representatives and joyful members of each SDF's volunteers

米軍嘉手納基地 (Kadena AB, USAF)

11月4日(土)、約1,000人のアスリート(身体的、知的障害を持つ競技者)が参加し嘉手納スペシャル・オリンピックが開催された。実施種目は、テニス、ソフトボール、バスケットボール、サッカー、トラック競技など多彩であった。嘉手納基地関係者からは、現在のような形での開催は今年が最後の開催になる可能性があるとの話もあり、那覇基地及び恩納准曹会は全力でサポートする意気込みで臨んだ。各准曹会を中心に、その家族(奥様やご子息で英語が比較的堪能)や陸上自衛隊与座、知念分屯地から各2名の隊員も含め約200名が通訳やテント・アシス

タントとして参加し、アスリートとバディを組んだ米軍人との間のコミュニケーション役や昼食の配膳などのボランティア活動を行った。参加した隊員の中には空自英検6級程度の語学力でもスマートフォンの通訳アプリを駆使して通訳して頑張った者もいた。

9月16日(土)にはスペシャル・オリンピックのボーリング部門が行われ、准曹会から約50名が参加した。

スペシャル・オリンピックは、アスリートの皆さんだけでなく、ボランティアとして参加した自衛官やその家族、米軍人及び地域の皆さんなど全員が笑顔になる素晴らしいイベントであった。

(准曹会那覇支部会長 空曹長 松原 洋 記)



Cheers in Kadena AB

Photos by Kadena AB HP



Brig. Gen. Cunningham awards an athlete a medal



Scenes of games and volunteers.
Participants and volunteers make the event most successful



SPORTEX'17Aを開催 SPORTEX'17A, a Japan-US friendship golf athletic meet, is held



Under fine weather on Nov. 2, 67 golfers, 46 JAAGA members including Vice President Watanabe, 21 USAF members including Col. Eisenhut enjoy playing field meeting at Tama Hills Golf Course

11月2日(木)、今年度最初のJAAGAゴルフコンペ「SPORTEX'17A」が米軍多摩ヒルズ・ゴルフコースにおいて開催された。1月の大統領就任後、初めてとなるトランプ米大統領の来日を5日に控え中止も危ぶまれた大会であったが米軍の御好意により実現することができた。このような状況の中にあって、第5空軍司令部及び米空軍横田基地司令部の多くの首脳陣は参加出来なかったが、米空軍から5空軍司令部幕僚長のアイゼンハット大佐(Col. Jean K. Eisenhut, Chief of Staff, 5AF)をはじめ21名、JAAGAから渡邊副会長はじめ個人・法人会員を含む46名のプレーヤーが参加し、日米から合計3名のボランティアが運営を支援した。

早朝5時にゴルフコースが開門、受付を済ませた参加者はクラブハウスにて朝食をとり、プレー準備を整え6時40分からの開会に臨んだ。開会式では、主催者JAAGAを代表し渡邊副会長から、5空軍を代表してアイゼンハット大佐からそれぞれ挨拶があり、上田理事による実施要領の説明の後、全員で記念撮影を行った。競技はショットガン・スタートで7時ジャストに開始され、18ホール・スループレーで実施された。当日は、まさに秋晴れ、ほぼ無風、気温も22度まで上昇し、ゴルフにとって絶好の条件に恵まれた。本大会は競技スコアに初めてダブルペリア方

式が採用されたため参加者全員に上位入賞のチャンスがあることから、競技は和やかな親善ムードの中にもプレーの真剣みが加わり、より一層面白みが増した大会となった。

18ホールを終えてクラブハウスに戻った各パーティは、それぞれテーブルを囲んで昼食をとりながらゴルフ談議を楽しんだ。

12時半過ぎから閉会式が開始され、成績発表、表彰式が行われた。米側最優秀スコアのリム大佐(Col. Song Rihm, GRS:69, HDCP:0, NET:69)に渡邊副会長からJAAGA会長賞が、日本側最優秀スコアの森岡隆志氏(GRS:81, HDCP:7.2, NET:73.8)にアイゼンハット大佐から5空軍司令官賞がそれぞれ贈られた。その他、ニアピン、ドラコン及びラッキー賞(NET成績が7の倍数順位)が該当者に贈られた。



Opening Ceremony

"Good Morning, today is the best day of golfers, so no rain, no wind and no excuse"

最後に、渡邊副会長とアイセンハット大佐からの講評において、本競技が円滑に進行され、かつ日米双方の親睦、親善を深める機会となったことに対する謝意と開催に尽力された米軍関係者とJAAGA 役員への労い

の言葉や今後とも日米関係者双方の友好と絆が一層深まることを祈念する旨述べられ、約1年ぶりに行われたJAAGA ゴルフコンペは幕を閉じ解散した。

(早坂理事記)

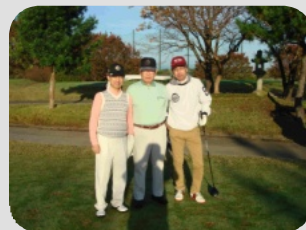
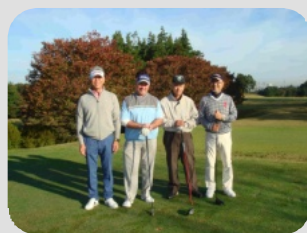


At the Closing Ceremony,
both Vice President Watanabe and Col. Eisenhut remarked
" We enjoyed and enhanced our friendship & goodwill.
See you all next time"



(↑) Awardees

(↑) Thanks Gift Prsentation



All players with smile on half time



米軍人の「ねぶた 2017」参加を支援 JAAGA supports participants from Misawa Air and Naval Base into Nebuta Festival

8月5日(土) 三沢支部は、米軍三沢基地リーダーズ等の「青森ねぶた祭り参加者」の支援を行った。

第35戦闘航空団司令官のご厚意で大型バスの運行支援を受け、リーダーズ等23名と山本事務局長夫婦の合計25名が参加した。

米軍三沢基地からの参加者は、この7月に着任された第35戦闘航空団副司令官 Col. Paul Kirmis、Kim 夫人と御家族、出張中の第35作戦群司令に代わり Kristen 夫人と御家族、第35任務支援群司令 Col. Philip Homes、Michelle 夫人と御家族、第35医療群司令 Col. Terence Cunningham、Jennifer 夫人と御家族、海軍三沢航空基地隊司令 Capt. Brian Pummill、第72警戒哨戒隊副司令 Capt. Paul Peverly、Terri 夫人と御家族、第35戦闘航空団司令部の広報担当者と長谷川さんであった。今回は、第72警戒哨戒隊副司令御一家が二度目の参加であった他、皆様、初参加であった。

今年のねぶた祭りは、青森市民ねぶたフロートチーム(ねぶた大賞受賞作)内のお囃子盛り上げ隊が大活躍で、ハネトとお囃子の一体感があり、非常に盛り上がった祭りとなっていた。米軍参加者はハネトに加わり全員が「非常に楽しい祭りだった。来年もぜひ参加したい」と大好評であった。

昨年に続いて参加した第72警戒哨戒隊副司令御

一家は「今年で最後になるかもしれないが、毎年参加できて非常に楽しかった」と御家族揃って喜んでいました。

青森ねぶた祭りの延参加者は212万人であったが、米軍参加者は212万分の25人以上に祭りを大いに盛り上げた。(山本三沢支部事務局長記)



25 Misawa Base leaders, families and JAAGA Misawa branch volunteers are bound for Aomori Nebuta Festival on 5th Aug.



“Misawa Base Leaders” and their family, in Nebuta costume “Yukata”, participated in Nebuta Festival in Aomori City as “Haneto” dancers



横田基地エアフォース・ボール 2017

Air Force Ball 2017 in Yokota AB in celebration of 70th birthday of USAF

米空軍創設 70 周年を祝う横田基地 Air Force Ball が、9 月 22 日(金) 1800 から横田基地タイヨロコミュニティセンターにおいて、米空軍横田基地司令主催で開催された。国旗掲揚、日米国家斉唱、祈り、ゲストスピーカーのジェームス退役中將 (Lt. Gen. (Ret.) Larry D. James) の挨拶等が行われた。特に「北朝鮮情勢は大変厳しい状況であるが、我々はいつでも戦う準備はできている、そして命ぜられれば戦い、必ず勝利する」と強調して述べられた。

今回の横田 Air Force Ball が 70 周年記念の節目ということで、会場には空軍創設当時の緑色の制服、階級章や保有航空機のプラモデルの展示が行われていた。地元の首長夫妻等多数招待されるとともに、空自からは前原航空総隊司令官夫妻、浅井航空総隊幕僚長夫妻、安藤航空戦術教導団司令夫妻、齋藤横田基地司令夫妻等多くの自衛官等が出席されていた。JAAGA からは岩本、藤田渉外理事、並びに石川、村田会員が参加した。美味しい食事や会話とともに楽しい音楽やダンス等、祝いの宴は夜遅くまで続いた。

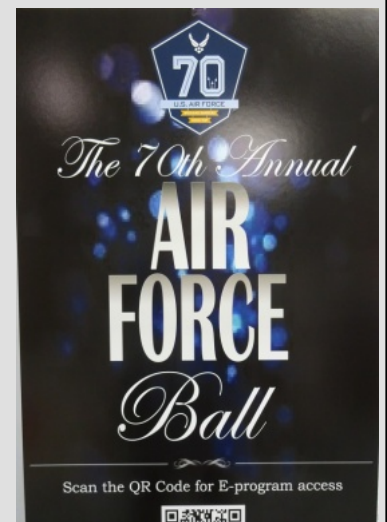
(岩本理事記)

Invited JAAGA members, Mr. Iwamoto, Mr. Fujita, Mr. Ishikawa and Mr. Murata celebrate and enjoy Air Force Ball at Yokota AB together with “Team Yokota” on Sept. 22



Commemorative photos with JAAGA directors (↑) Lt. Gen. Martinez and his chief CMSgt Greene

(↓) Col. Moss and his chief CMSgt Young



2017 横田基地日米友好祭が開催 Yokota Air Base opens doors for the 2017 Japanese-American Friendship Festival

2017 横田基地日米友好祭が、9月16日(土)及び17日(日)の両日開催され、9月16日(土)1300から祝賀レセプションが米軍下士官クラブで行われた。地元関係者とともに空自から前原航空総隊司令官、小野副司令官、浅井幕僚長、安藤航空戦術教導団司令、齋藤横田基地司令、中原入間基地司令、塩田府中基地司令等をはじめ多数の隊員が招待された。JAAGAから阪東理事夫妻、岩本及び藤田各渉外理事と石川、新井及び村田各会員が出席した。約1時間半の懇談、食事等の間、ホストの米空軍横田基地司令モス大佐は、レセプション間各テーブルを積極的に挨拶して回り歓談をされ、レセプションの最後にスピーチされ「皆さん、ようこそ横田基地日米友好祭へいらっしゃいました。現在の北朝鮮情勢は厳しい状況にあり、横田基地は引き続き地域との共存共栄を図るとともに、日米同盟の堅い絆の発信地として努力して行く」とレセプションを結ばれた。台風18号の接近のため当初計画のあったB-1Bランサーの展示は中止されたものの、曇り気味の天

候ながらC-130Jスーパーハキュリーズ、RQ-4グローバルホークをはじめ、日、米から多数の航空機が展示され、多くの観客で賑わった友好祭となった。

(岩本理事記)



(↑)JAAGA members Mr.Ishikawa, Mr. & Mrs. Bando, Mr.Arai, Mr. Murata, Mr. Fujita and Mr. Iwamoto with Col. Moss, Commander of Yokota AB at NCO Club on Sep. 16



Photos by Yokota AB HP

JAAGA 会員の横田基地研修 JAAGA Members' Visit to Yokota Air Base, Sept. 25

9月25日(月)、JAAGA 恒例の横田基地研修は、小野田治氏(正会員)を団長、井草治助氏(個人賛助会員)及び瀧上平八郎氏(法人賛助会員)を副団長として、総勢36名の研修団となって実施された。横田基地の所在部隊を研修していく中で、日本の安全保障の現状とそこでの各所在部隊の役割及び問題点等について学ぶことができ、また、航空自衛隊と在日米空軍との緊密な連携の状況も確認することができたので、非常に有意義な研修となった。

先ずはじめに研修団は、在日米軍司令官兼第5空軍司令官マルティネス中将(Lt. Gen. Jerry P. Martinez)からスピーチをいただき、「日本はひとりではない」、「日米同盟は強い」という2つのメッセージに団員一同感銘を受けた。「今、北朝鮮は日本に悪意を持って仕掛けてきているが、日米同盟の強さを恐れている。こういう時こそ大事なのは、日米の友情と信頼の下にしっかり連携して訓練を継続し、戦力の実効性を高めておくことである」と述べられ、最後に「私たちは勝ちます」との強い言葉を残された。その後、在日米軍と第5空軍の現状等について担当から解説いただき、日米連携のシステムとパートナーシップの強さについて学ぶことができた。

続いて、ランプ地区において、C-130JやC-12J輸送機に加え、今日本で話題になっているグローバル・ホーク(RQ-4)の見学ができた。高度な搜索・監視能力やSIGINT能力があり、世界からも注目され、まさに今、情報収集で活躍している装備だけに団員の注目の的だった。米軍説明員にも熱が入り、解説の掲示板には

見たことも無いような詳細な資料が掲げられ、性能や活動状況について容易に理解することができた。また、航空機展示に加えて、滑走路被害復旧器材が展示されており、200個の比較的小さな被害を約8時間で復旧する能力を有しているとのことで、米空軍が強靱性の強化にも力を入れている点が印象的だった。

JAAGA 主催の昼食会は、航空総隊司令官前原弘昭空将、同副司令官小野賀三空将、同司令部防衛部長今城弘治空将補、航空戦術教導団司令安藤忠司空

将補以下14名の空自幹部、第5空軍司令部参謀長アイゼンハット空軍大佐(Col. Jean K.

Eisenhut)以下20名の米空軍幹部を招待して下士官クラブで行われた。昼食

会冒頭において、団長が「日米相互を守るには、我々日米の揺るぎない協調が重要である」とスピーチし、最後に半島情勢が不安定な最中の研修受け入れに謝辞を述べた。航空総隊司令官からは、それに呼応するように、歴代司令官、旧知のOBの方々や現役米軍人が旧交を温められることをうれしく感じている旨のスピーチがなされた。第5空軍司令部参謀長からも米軍をもっとよく知ってもらって、今後のお互いの協力体制の強化に



JAAGA Chairman Onoda presents memorial plaque to Col. Eisenhut



JAAGA tour members together with USAF and JASDF commanders and staff members

繋げていきたい旨のスピーチをいただいた。その後、各団員は、各テーブルで昼食をとりながら、現役自衛官及び米軍人の方たちと和やかに懇談した。

後半は、陸送、空輸用の荷組みを行う巨大倉庫の管理システム等について研修した。横田基地は、年間 85 万 t もの物資を差配するハブ空港基地だけに、その物流倉庫も巨大で、大量の物資をしっかりと保管しつつ、オートマチックかつスピーディに配送しているという状況に皆驚いた。

次に、航空総隊司令部において、航空総隊の概要と現状をブリーフィングしていただいた。緊迫しつつある東アジア情勢にあって、自衛隊は、様々な事態に常に的確に対応するとともに、日米協力の実効性を上げるべく共同訓練を実施しているということが良く理解できた。航空総隊司令官講話では、航空総隊の横田移転時や

日米の空軍種交流時のエピソード等、普段聞くことができない話や韓半島情勢に対する即応態勢をとり続けることの課題を一つ一つしっかり乗り越えているとの力強い言葉をいただいた。また、日米のミリタリーの絆は、若い幹部の頃からの日米交流で養われ、次第に強固なものになっていくものであり、今後も更に強化されていくであろうこと、そして、最後に F-35 戦闘機を例に、今までとは概念が全く違う近代兵器を今の若い隊員は、先入観無くしっかりと吸収し、着実に戦力化しているとの心強い言葉をいただいた。

本研修を通じて、日米双方が連携の強化・緊密化の重要性を強く認識していると実感した。そして、日米友好・親善を図ることができ、研修目的を十分達成することができた。研修受け入れに協力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。 (池田理事記)



Several scenes of tour at Yokota AB



(↑) JAAGA hosted luncheon with Commander of Air Defense Command, JASDF as well as commanders and staffs of USAF and JASDF



~ Commemorative photos ~
 (←) at the entrance hall of Air Defense Command building (→) in front of C-130J

米空軍士官学校交換留学生へのホスト・ファミリー支援 JAAGA members become host families for U.S. Air Force Academy exchange cadets

JAAGA理事ホストファミリーに委嘱

9月12日(火)防衛大学校において、交換留学生のホストファミリーに対する委嘱状交付行事が行われた。防大では現在、アジア地域11カ国(カンボジア、インドネシア、ラオス、モンゴル、ミャンマー、フィリピン、韓国、シンガポール、タイ、東ティモール、ベトナム)からの約100名が本科の0年生(日本語課程修得)から4年生までの長期(韓国:2年生から3年生の2年間、シンガポール:本科4年間)にわたり在学しているが、これに加えて1セメスター(1学期)留学生の制度があり、本年は8月24日(木)から12月15日(金)の予定で、米国9名(陸軍士官学校2名、バージニア軍事大学1名、海軍兵学校3名、空軍士官学校3名)、豪州1名(統合軍士官学校、女性)、仏国1名(空軍士官学校)の20歳から25歳の青年計11名が防大学生と共に学ぶ。

JAAGAは毎年、米空軍士官学校からの1セメスター留学生をホストファミリーとして支援しており、今年度は、吉田、岩本、木村の各理事がそれぞれ、トーマス・イーディー(Thomas Eadie)、モーマン・レッド(Mormon Redd)、ザカリー・ジョーンズ(Zachary Jones)の各学生を家族ぐるみで支援する。

11時10分から國分良成学校長による委嘱状交付式が行われ、引き続き学校主要幹部を交えたホストファミリーとの懇談に移った。國分学校長からは、4ヶ月の留学で日本のファン・架け橋となる存在が増えている現状や、

留学制度に係る将来の夢、今回の留学生の着校後のエピソードなどが披露された。ホストファミリーの中には本科の留学生を受け入れている留学生協力家庭(現在63家庭(本科留学生担当52家庭+1セメスター留学生担当11家庭))で5年間の留学生を数名受け持つ



Host families are talking with cadets during luncheon after commission ceremony



Friendly talks between President Kokubun and host families



Ph.D. Ryosei Kokubun, President of National Defense Academy, commissioned 11 families, including 3 JAAGA members, as host families for one-term-exchange cadets to NDA at National Defense Academy on Sept. 12

ている方もおられ、様々な体験談が聞かれた。留学生が帰国後も学生やホストファミリーとの交流が続いている、防大学生が米国派遣時に1セメ留学経験者の世話になった等の微笑ましい話も聞かれた。

30分弱の懇談の後、本館1階玄関で記念撮影が行われ、学校長等とはここで分かれ、荒天の中、バスで幹部食堂へと向かい、12時から約40分間、留学生との懇親会食が行われた。留学生に敬意を払い英語も用いたが、空軍士官学校からの3名(4年生2名、3年生1名)は揃って日本語が達者で、箸使いも上手く、日常生活に不自由することはないように見受けられた。来年5月に卒業を控えた

4年生2名は今週末に職種が決定されるとのことで、「こんな時に日本にいて大丈夫なのか」と脅しをかけたが、余裕の表情であった。初対面なので、お互いの自己紹介から始まり、次第に米国での生活、家族の状況、留学間の抱負等に話題が及んだが、着校から僅か2週間程度しか経っていないのに、1セメ留学生だけで富士登山に行き頂上を極めた、との話しには、彼らの好奇心と行動力を羨ましく感じた。

あっという間の時間であったが、各家庭毎の活動と、JAAGAとしての日光研修を通して今後交流を深めていくことを約束して、一連の行事を終えた。(木村理事記)

※ ※

**交換留学生と共に日光研修へ
Exchange cadets study tour to
Nikko together with JAAGA host families
& local high school students**

10月28日(土)から29日(日)にかけて、米空軍士官学校留学生のホストファミリーである吉田、木村、岩本の3理事が、留学生3名を引率しJAAGA主催の日光研修を実施した(吉田、木村両理事は、航空観閲式(注:台風の影響で当日中止)のため、1日目のみ参加)。28日(土)朝、JR東京駅に留学生とホストファミリーが集合し、東北新幹線で出発した。車内では、留学生の生い立ち、全員が戦闘機操縦者を希望していること、防大学生有志による靖国神社行軍に参加すること、日本の憲法等にまで話題がおよび、あっという間に時間が過ぎた。宇都宮駅では、堀川典子様(JAAGA個人賛助会員高柳實様のご息女)、佐藤真紀子様(宇都宮海星女子学院教諭で堀川様の従妹)及び宇都宮海星女子学院の生徒3名が星条旗を手にお出迎えして下さいました。生徒達は全員が高校2年生で、今回のアテンドを通じた英語研修を待ち焦がれていたとのことであっ



Group Photo at hotel with Mr.Takayanagi, Mrs. Horikawa, Mrs. Sato and students of Utsunomiya Kaisei Girls' High School



Dinner with Mr. & Mrs. Takayanagi and Mrs. Horikawa



High school girl students welcome exchange cadets at JR Utsunomiya Station

た。駅近くのホテルでアイスブレイカーを兼ねた昼食をとり、1時間半のドライブの後、小雨交じりの中、「日光東照宮」を見学した。生徒

達は、海外での生活経験を有しており英語も堪能で、事前に各観光名所の下調べをしたファイル片手に英語で2日間、本研修の支援をしてくれた。留学生達は、マンツーマンで英語で対応してくれる生徒達と息も合い、リラックスして研修を楽しんでいた。その後再び宇都宮市内に戻り、宿泊先ホテルでの夕食会に先立ち、毎年多大なるご支援をいただいている高柳様を囲んで記念

写真を撮り、佐藤教諭、生徒達とはここで別れた。夕食会は高柳様ご夫妻を囲んで和やかな雰囲気の中進み、留学生達が初めて口にする食材も使ったおいしい中華料理と飲み物に会話が弾んだ。高柳様が北九州からピッツS2AとFA200を購入され旧満州航空隊出身の新妻東一氏(故人)とアクロバットチームを結成されて航空界と係られた話、過去にこんなスゴイものを食べた話、米国大統領の話等いろいろな話題に、留学生達もリラックスして楽しい一時を過ごした。

翌 29 日(日)は、大谷石の産地にある「大谷石資料館」や「大谷坑内」等を見学した。地下坑内は戦時中には軍需工場として使われており、“疾風”戦闘機も坑内で作られていた。また坑内の一部は人力で 30メートルの深さまで石を削り持ち出して作られていた。地下坑内の広さや当時の日本人の忍耐強さと素晴らしさに留学生たちも驚いていた。最近では、数々の有名な歌手等によるコンサートや映画撮影にも使用されており、坑内の一部はプロジェクションマッピングを使用した映像効果で神秘的な雰囲気を醸し出していた。その後「大谷寺」、宇都宮海星女子学院生が入学式や卒業式の際お祈りに来るという大谷石造りの「松が峰教会」を見学し、宇都宮市内のレストランで、今回の研修で感銘を受けたことや勉強になったことなど研修を振り返りながら昼食

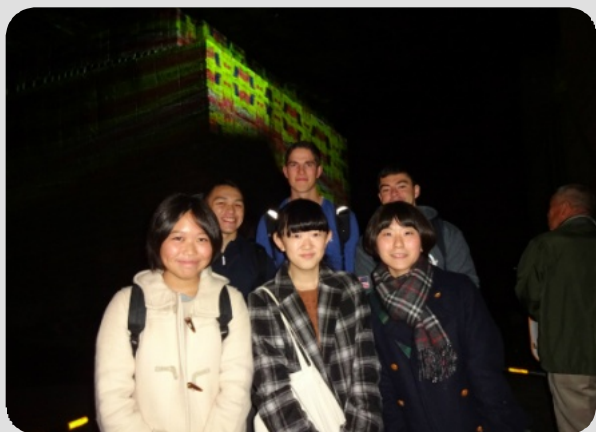
と会話を楽しんだ。

残念ながら台風接近のため当初計画を2時間程度切り上げて、宇都宮駅で堀川様、佐藤教諭、生徒達のお見送りを受けて我々は帰路についた。東京駅に向かう新幹線の中で留学生達は「今回の研修は、日光等では日本の文化伝統に触れ、アテンドの生徒達との多岐にわたる会話を通じ日本の高校生の考え方も理解でき、大変楽しく有意義でした。支援して頂いた皆様に心から感謝しています。」と語ってくれ、東京駅から一路防大に帰っていった。

本研修を通じて3名の留学生が、日本に対する理解を一層深め、今後米空軍将校として活躍されるとともに、更には将来の日米の友好関係向上、同盟の強化に貢献してくれることを祈念します。

本日光研修は偏に、長年にわたりJAAGA 個人賛助会員であられる高柳様のご厚意によるものであり、事前調整から天候に応じた柔軟な研修実施にあたっては、堀川様、佐藤教諭及び3名の宇都宮海星女子学院の生徒の皆さんに多大のご支援をいただきました。また、防衛大学国際交流センターからも、留学生の行動計画等に関し様々なご配慮等を頂きました。この場を借りて改めて心から感謝を申し上げます。

(岩本理事記)



at Oya History Museum



Communication scene between cadets and attending high school students



Group photo at Nikko Toshogu Shrine



～日光研修よもやま話～その経緯・意義等について～
Talking about "this and that" of Nikko Tour

米空軍士官学校交換留学生の日光研修を企画・担当した理事として、研修の背景や意義等について会員の皆様に紹介します。

本研修は、個人賛助会員である高柳實様の多大なるご支援のもと、2年前から行われています。長年にわたり高柳様が支援してこられた在日米軍人の日光研修は50回を超え、企画・調整はご令嬢の堀川典子様を担当されてきました。米軍との縁は、高柳様がアクロバット専用機であるピッツ S2Aとエアロスバルの2機を保有し、岩国基地をはじめとする日本各地の米軍基地で展示飛行を行ってこられたことにあります。現在84歳になる高柳様は、今回の夕食会にはご夫婦揃って出席していただきました。

堀川典子様は、電機メーカーに勤務中の1999年に国内で家用操縦士の資格を取得、社内にフライングクラブを立ち上げ、仲間と共に米国での訓練を重ねてこられました。現在は一般社団法人日本女性航空協会の理事、栃木県航空協会レッドスバルの理事などを務められ、航空の発展に貢献されています。2002年には韓国女性航空協会の協力を得て日本女性航空協会の日韓フライトチームを結成され、成田～金浦間を自家用機で飛行されました。そのような功績が認められ国土交通大臣感謝状を授与されておられます。

従前は堀川様自ら案内されていたそうですが、2年前から堀川様の母校である宇都宮海星女子学院のESSクラブ(English Speaking Society)に所属する生徒のアテンド支援を企画されました。生徒達と学校にとって本研修は英語研修との位置付けであり、研修に先立ち抱負を学校に提出するとともに、研修先である東照宮等に関する勉強はもとより、留学生からなされるであろう質問を想定した勉強も行っていました。

本研修後、ESSクラブの部長である佐藤教諭から頂いたメールには、次のように書かれていました。「将来への希望を強くした者、英語学習の重要性を認識した者、英語検定1級にチャレンジした者など様々です。保護者から『帰宅するなり英語での文化紹介が如何に大変で、楽しく、忘れられない思い出になったかを興奮気味に話してくれた。あんなにキラキラとした目で自分の経験を話してくれたのは何年振りか、大変良い経験だったようだ。学校に、またチャンスを下さった関係者によるしくお伝え下さい。』との言葉を頂きました。」

神社・仏閣の研修には外国人向けのガイド機器をレンタルすることが最も簡便かつ正確かもしれませんが、

堀川様は日本と米国の将来を担う若者が相互に文化や風習を理解し合うことに重きを置かれ、本研修をそのような場として位置付けられているのだらうと拝察しました。

宇都宮海星女子学院の生徒達の所感文を読ませていただきましたが、彼女達は、研修した東照宮等の名所旧跡だけでなく、政治や文化など広範にわたり意見交換しており、自己のアイデンティティーを確立することの重要性と相手に説明できる知識と勇気の必要性に気付いていました。

このように日光研修は、多くの方々に支えられながら日米友好関係の充実・発展に確実に寄与しており、携わった全ての方々にとっても有形・無形の意味があることを、企画しホストファミリーとして参加したことによって、実感しました。(吉田理事記)



特集

米空軍交換将校だより

Present circumstances of "Officer Exchange Program
between JASDF and USAF"

【通信電子部門】

航空教育集団 第4術科学校

(4th Technical School, Air Training Command)

Maj. Charles J. Cadwell

皆さん、はじめまして。私は第4術科学校(学校長:後藤将補)への米空軍交換将校のキャドウェル少佐です。現在、第1教育部第1科で勤務しています。私の職種はサイバー空間オペレーション(空自においては通信

電子職域)であり、これまでに米軍の様々な移動通信部隊での勤務を経験してきました。来日直前は、統合通信支援部隊(フロリダ州)に所属していました。

交換将校への配置が決まった時、私は全く日本語が話せませんでした。そのため、国防総省外国語学校に

において1年半、日本語を勉強しました。授業は本当に難しかったです！

卒業後、2015年12月に日本に赴任しましたが、実は日本に住むのは初めてではありません。私の両親は海軍士官で米海軍横須賀基地勤務だったので、4歳まで横須賀に住んでいました。(あいにくこの時は日本語を習いませんでした。)それ以来、日本に帰ることが私の夢になりました。

そして今回の任務で、この夢が実現しました。妻(アリー)もこの機会を非常に喜んでいますが、妻は海外旅行が好きですが、日本に来たことがありませんでした。彼女は日本での生活様式に若干の心配がありましたが、その心配は杞憂に終わりました。周囲の方々は、妻をやさしく受け入れて下さっています。

職場では第1教育部の皆さんから温かい歓迎を受けましたが、航空自衛隊と米空軍の間では、文化や職務上の各種手続きが少々異なるため、時々戸惑うこともありました。今では都度の説明を受けながら、積極的に仕事を行うようにしています。1教部長(井出 2佐)

からもドンドン仕事のオーダーが来ます！

米空軍と空自の文化の違いですが、例えば私自身の昇任(大尉から少佐へ)時、後藤学校長の計らいで、米空軍形式の昇任セレモニーを、学校朝礼の場を活用して紹介も兼ねながら実施していただきました。妻と娘(アビー)も同席させて頂き、大変感謝しております。



Promotion ceremony (Capt. to Maj.) in the USAF style by Maj.Gen. Goto, Commander of 4th TS.

学生教育については、米空軍に関する事項や一般的な情報通信技術等を教育しています。例えば米空軍の組織制度や運用形態、IT教育等です。また、学生の横田基地への校外訓練の調整も実施しています。今年、グローバル・ホークが横田基地に一時展開(暫定措置)されたので、同部隊の研修を初めてアレンジしました。防衛省は将来、グローバル・ホークを調達する予定なの



RQ-4 Global Hawk is about to make its first take-off from Yokota Air Base Japan, May 5, 2017 (Photo by Yokota AB HP)

で、早期に当該研修を受けることは学生にとって非常に有意義だと思います。そして、新設された情報通信システム幹部課程(試行)に対しては、米軍サイバー空間任務部隊や米空軍サイバー空間作戦以外に、米空軍文化についても教えています。先日は先任下士官制度やMRE(Meal, Ready-to-Eat:野戦食)についての授業を行いました。野戦食を試食する機会も設けましたが、誰も食中毒を起さなかったと思います！(笑)

教官業務に加えて、他のイベントにも参加しています。例えば、今年の日米サイバー空間エンゲージメントでは、発表者としてプレゼンテーションを行いました。このイベントは第5空軍



Three-week-intensive training gave Maj. Cadwell and his family big smiles after participating in an exhibition in the 4TS Jukendo (a martial art using bayonet) meet

A6(サイバー空間作戦部)と空幕情通課が共同開催する会議であり、米空軍と航空自衛隊の様々な情報通信関連部隊の隊員が相互に意見交換等を行い、交流します。通常、発表は英語で実施しますが、やはり日本側参加者にとっては和訳が負担

になります。米空軍としても外国語への取り組みを示すため、そして私自身は第5空軍のために、日本語で米軍サイバー空間任務部隊に関する発表を行いました。

最近、非常に素晴らしい体験をしたので紹介します。第4術科学校の銃剣道大会に参加しました。銃剣道はもとより武道は初めてでしたが、大会前に約3週間、銃剣道の訓練に加わり、試合形式のエキシビジョンに出場しました。選手の皆さんの練習を見て、銃剣道の心技体の姿勢を理解することが出来ました。また学校長招待により、家族も大会を見学する機会をいただき、妻も大変喜んでおりました。

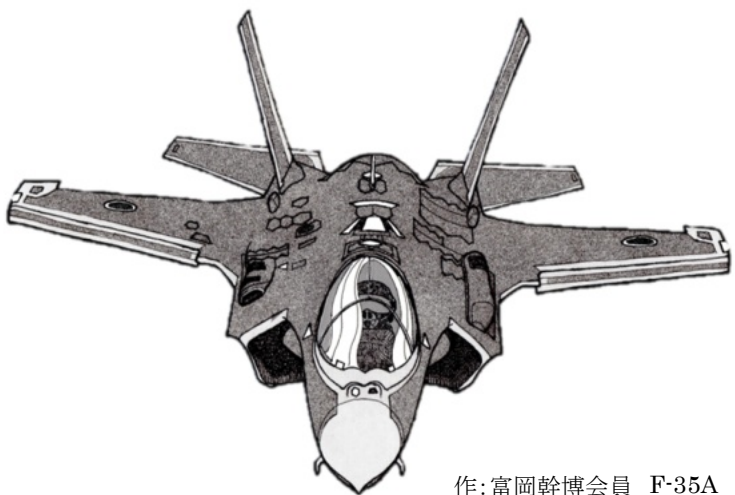
最後に、今まで日本生活を体験出来たことにとっても感謝しています。残念ながら、来年の夏にはこの勤務を終え、次の任地に転勤する予定です。その時には、更にとくさんの楽しい思い出を持って帰りたいと思います。今後とも宜しくお願い致します。



Scene of giving his lesson for students of 4th Technical School



With his wife, "Alison", and their daughter "Abigail" at Kumagaya AB in Sakura season



作: 富岡幹博会員 F-35A

新入会員紹介

正会員 (Regular Member)

氏 名	住 所
小 城 真 一 氏	埼 玉 県 草 加 市
尾 上 定 正 氏	千 葉 県 柏 市
松 田 幹 生 氏	埼 玉 県 所 沢 市

個人賛助会員 (Personal support Member)

氏 名	住 所
相 京 重 信 氏	神 奈 川 県 横 浜 市
石 渡 一 夫 氏	東 京 都 千 代 田 区
大 島 由 紀 恵 氏	福 岡 県 福 岡 市
中 西 康 雄 氏	東 京 都 足 立 区
鳥 居 真 紀 氏	東 京 都 港 区

会 員 募 集

今期は関係各位のご努力で新たに正会員3名、個人賛助会員5名の入会を得ることができました。平成29年12月1日現在、正会員260名、個人賛助会員81名、団体賛助会員2団体、法人賛助会員40社となりました。今後とも会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、本会への入会につきましては、次のとおりです。推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接担当理事から連絡させていただきます。

【入会資格】

- 正 会 員 : 航空自衛隊のOB
- 賛 助 会 員 : 航空自衛隊のOB以外の方。正会員3名の推薦が必要です。

【連絡先】

- 郵 便 〒160-0002
東京都新宿区四谷坂町9番7号 ZEEKS 四谷坂町ビル 3F
日米エアフォース友好協会 会員係
- メール

membership@jaaga.jp

編 集 後 記

- ◇ JAAGA だより53号をお届けします。発行部数は約1550部です。会員はもとより、航空自衛隊や米空軍関係者、防衛省内外の多くの皆さんにもご愛読いただき、この場をお借りし感謝申し上げます。
 - ◇ 中国軍事力の増大や北朝鮮の核兵器開発の進展など、日本を取り巻く情勢は増々厳しさを増しています。53号では我が国防空に関係する動きとして、米空軍B-1B爆撃機とF-2戦闘機などの共同訓練の様子を引き続き掲載しました。
 - ◇ 48号から連載特集として、空幕教育課のご協力を得て米国交換将校ご本人による紹介記事を掲載しています。今回は第4術科学校(通信電子部門)の交換将校です。
 - ◇ JAAGAゴルフコンペにおける全参加者のパーティー毎の写真を希望者に提供いたします。広報係に電子メールにてご連絡ください。
 - ◇ 「JAAGA だより」は、創刊号から最新号まで JAAGA ホームページ (<http://www.jaaga.jp/>) からご覧頂けます。ホームページの『20年の歩み』又は『だより』にアクセスしてご覧ください。
 - ◇ 最近、在日米空軍も航空自衛隊を“Koku-Jieitai”と呼びかつ表記するようになってきています。次号からはキャプションの英語表示に使用していくことも検討していきます。
 - ◇ ご愛読の皆様からの投稿大歓迎です。また、皆様の忌憚のない意見や感想もお寄せいただきたいと思います。
- 【連絡先(メール)】 日米エアフォース友好協会 広報係 pubaffair@jaaga.jp
- ◇ 今後も JAAGA の活動を地道に発信していきたいと思っておりますので、会員及び現役の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。
- (編集子)



(作:山本康正会員)